

ユネスコスクールの 新たな展開について

令和3年12月21日（火）



文部科学省国際統括官付
（日本ユネスコ国内委員会事務局）



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,

CULTURE, SPORTS,

SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

ユネスコの新たな展開について

1. 経緯

○我が国のユネスコスクールは、2005年度は16校であったが、持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development: ESD）の推進に関する日本ユネスコ国内委員会（以下、国内委員会）の提言やESDに関するユネスコ世界会議の開催などをきっかけに数を増やし、1,120校（2019年11月現在）と世界でトップレベルの登録数に達するほどその取り組みは発展してきた。一方、世界のユネスコスクールの1割を占めるようになった現状において数そのものよりは、質の確保が強く求められる段階になってきていること、ESDを取り巻く国内外の状況の変化への対応の必要があることから、2020年6月18日、8月21日、ならびに11月10日に開催された第141回、第142回、第143回教育小委員会において議論を行い、翌2021年2月26日の第144回教育小委員会にて最終案をまとめた。

2. 現状の課題

- (1) 国際的視野に立った意義・役割の再定義
- (2) 量的拡大に伴う現状と支援をめぐる課題
- (3) 活動の低迷
 - (a) 登録からの経年による活動低下
 - (b) ユネスコスクール間の連携不足
- (4) 登録手続き等

3. 今後の方向性

(1) 国際的視野に立ったユネスコスクールの方向性

- ・ユネスコスクールの活動分野や活動手法において多様性を目指す
- ・我が国において、ユネスコスクールがESD推進拠点としての役割を求める方向性は維持する。
- ・他方、ユネスコの理念をその教育に反映させているという国際的な基準を満たす学校についても、ユネスコスクールへの加盟申請ができるよう審査を行う。

(2) 活動活性化のための方策

- ① ネットワークの機能強化、
- ② ユネスコスクールのビジビリティの向上（広報・普及の強化）

(3) 審査体制・基準の見直しと登録後の質の担保

- ① 審査体制の見直し、② 基準の見直し、③ 登録後の質の担保について

(4) 登録申請期間の長期化に伴う仕組みの導入

国内の手続きを終え、ユネスコの認定を待つ状態の学校に対し、「ユネスコスクールキャンディデート」として、国内のユネスコスクールのネットワークへの加入と活動への参加を可能とする。

<世界的な主な動き>

1992 国連環境開発会議（リオデジャネイロ）

2002 持続可能な開発に関する世界主脳会議（ヨハネスブルグ）

2005～2014 UNDESD

2014 ESDに関するユネスコ世界会議（日本）

2015～2019 Global Action Programme (GAP)

2015 SDGs 採択

2020～2030 ESD for 2030

<日本における主な動き>

2007 日本ユネスコ国内委員会
「UNDESDの更なる推進に向けたユネスコへの提言」

2008 国内委員会が「ESDの普及促進のためのユネスコ・スクール活用について提言」

ASPUnivNet発足

2009 国内委員会「ESDの一層の普及及び支援の推進について（建議）」
ユネスコスクール全国大会開始（以降毎年開催）

2012 国内委員会「ユネスコスクールガイドライン」

2017.3&2018.3 新学習指導要領公示

2018 第3期教育振興基本計画

2020～新学習指導要領の実施

SDGsの実現に貢献する「持続可能な開発のための教育（ESD）」

持続可能な開発のための教育(ESD)とは

- ◆ 持続可能な社会の創り手を育むため、現代社会における地球規模の諸課題を自らに関わる問題として主体的に捉え、その解決に向け自分で考え、行動する力を身に付けるとともに、新たな価値観や行動等の変容をもたらすための教育。
国際理解、環境、文化多様性、人権、平和等の個別分野を持続可能な開発の観点から統合させ分野横断的に行われるもの。
- ◆ ESDは我が国が提唱した考え方（2002年「持続可能な開発に関する世界首脳会議」）。それ以降、ユネスコを主導機関として国際的に推進。



ESDは、持続可能な社会の創り手の育成を通じ、SDGsのすべてのゴールの実現に寄与。

【参考】ESD for 2030の決議（一部抜粋）

2. 持続可能な開発のための教育は…(中略)…質の高い教育に関する持続可能な開発目標に不可欠な要素であり、その他の全ての持続可能な開発目標の成功への鍵であることを再確認する。
国連総会決議（2019年12月）

【参考】SDGsのゴール4(教育)のうち、ターゲット4.7

4.7 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。



ユネスコスクールのテーマ別重点事項

ユネスコスクールネットワークはその使命と目的に沿って、経時的に様々に変化し得るグローバルおよび国内の目標の達成に貢献します。持続可能な開発目標（SDG）アジェンダに照らして、また特にSDG4－教育2030において、ユネスコスクールネットワークのテーマ別活動分野には以下のようなものがあります。

- a. 地球市民および平和と非暴力の文化、
- b. 持続可能な開発および持続可能なライフスタイル、および
- c. 異文化学習および文化の多様性と文化遺産の尊重

（ユネスコスクールナショナルコーディネーター用ガイドより抜粋）

ユネスコスクール：ESDの推進拠点

ユネスコスクールとは？

- ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念に基づき、平和や国際的な連携のための活動を実践する学校
- 世界で11,000校以上のユネスコスクールがあり、日本国内の加盟校数は1,120校(2019年11月現在)で**世界最多**
- 文部科学省及び日本ユネスコ国内委員会では、ユネスコスクールをESDの推進拠点と位置付け、その活動に対する支援等を行っています。

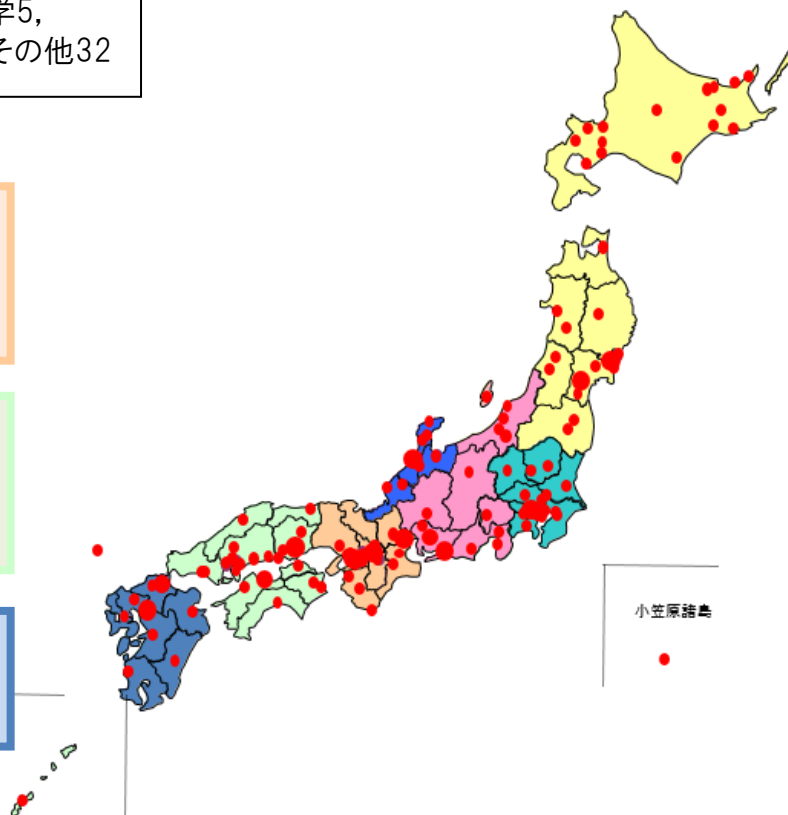
日本全国:1,120校

幼稚園21, 小学校554, 中学校279,
中高一貫校等60, 高校156, 大学5,
高等専門学校1, 特別支援学校12, その他32

近畿地区:141校
幼稚園5, 小学校52, 中学校26,
中高一貫校等13, 高校33, 大学2,
その他10

中国・四国地区:178校
幼稚園1, 小学校92, 中学校39,
中高一貫校等9, 高校32,
特別支援学校2, その他3

九州地区:69校
小学校32, 中学校22,
高校12, 特別支援学校1, その他2



北海道・東北地区:162校
幼稚園8, 小学校77, 中学校42,
中高一貫校等4, 高校25, 大学1,
特別支援学校1, その他4

北陸地区:119校
小学校84, 中学校32,
高校2, 高等専門学校1

関東地区:173校
幼稚園2, 小学校75, 中学校38,
中高一貫校等26, 高校22,
特別支援学校2, 大学1, その他7

中部地区:278校
幼稚園5, 小学校142, 中学校80,
中高一貫校等8, 高校30, 大学1,
特別支援学校6, その他6

ユネスコ（国連教育・科学・文化機関）とは

- ユネスコ（国際連合教育科学文化機関、United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization: U.N.E.S.C.O.）は、諸国民の教育、科学、文化の協力と交流を通じて、国際平和と人類の福祉の促進を目的とした国際連合の専門機関。
- SDG4(教育)のリーディング・エージェンシーであり、SDG4ステアリングコミッティを主催。
- 創設: 1946年11月4日（日本加盟: 1951年7月2日）
- 加盟国・地域数: 193カ国（2020年2月現在）



（ユネスコ憲章前文より）

戦争は人の心の中で生れるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。

相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信をおこした共通の原因であり、この疑惑と不信のために、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった。

ここに終りを告げた恐るべき大戦争は、人間の尊厳・平等・相互の尊重という民主主義の原理を否認し、これらの原理の代りに、無知と偏見を通じて人間と人種の不平等という教義をひろめることによって可能にされた戦争であった。

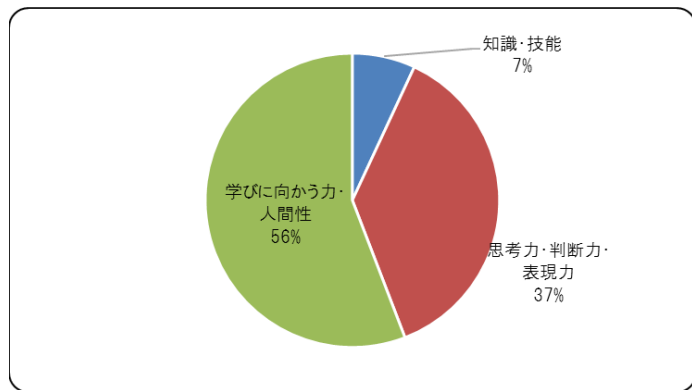
文化の広い普及と正義・自由・平和のための人類の教育とは、人間の尊厳に欠くことのできないものであり、且つすべての国民が相互の援助及び相互の関心の精神をもって果さなければならぬ神聖な義務である。

政府の政治的及び経済的取極のみに基く平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって平和は、失われたいためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない。



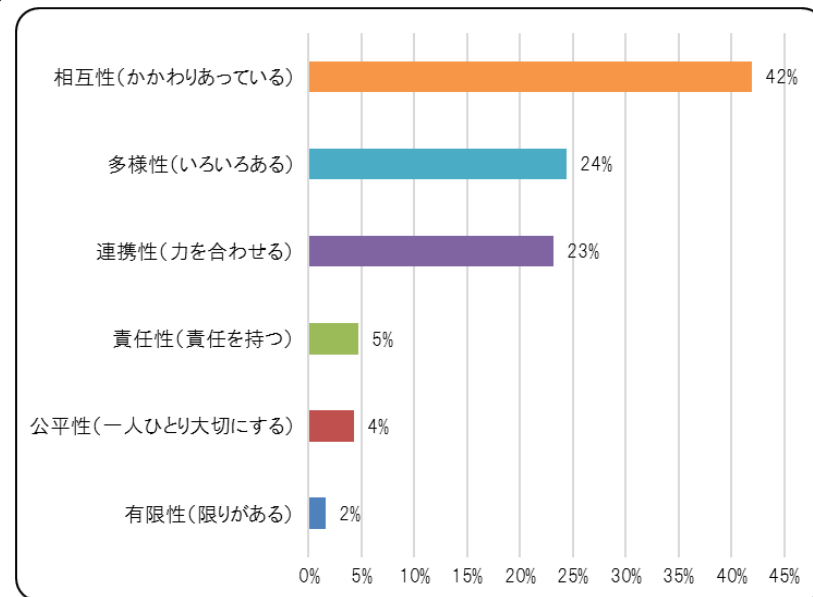
2020年度ユネスコスクール活動調査結果（抜粋①）

図32 最も変化の見られた「資質・能力の三つの柱」



（参考：2. ② 質問1(5)）[N=636]

図33 最も変化の見られた持続可能な社会づくりを構成する6つの視点



（参考：2. ② 質問1(6)）[N=635]

<表15> 児童生徒の変化を促した主なきっかけ

- ・総合的な学習の時間での体験学習を通して、社会の立場の異なる様々な人と関わりを持ったこと
- ・文化・世界遺産等、実体を目の前にした学習をおこなったこと
- ・自然環境や人の暮らし等の関係性に気が付いたこと
- ・オンラインでの国際交流、途上国支援活動等を通じて、国際的なつながりを感じたこと
- ・ボランティア活動を通して学んだ日本・世界の課題
- ・SDGsに関連した講演会、プロジェクトに参加したこと

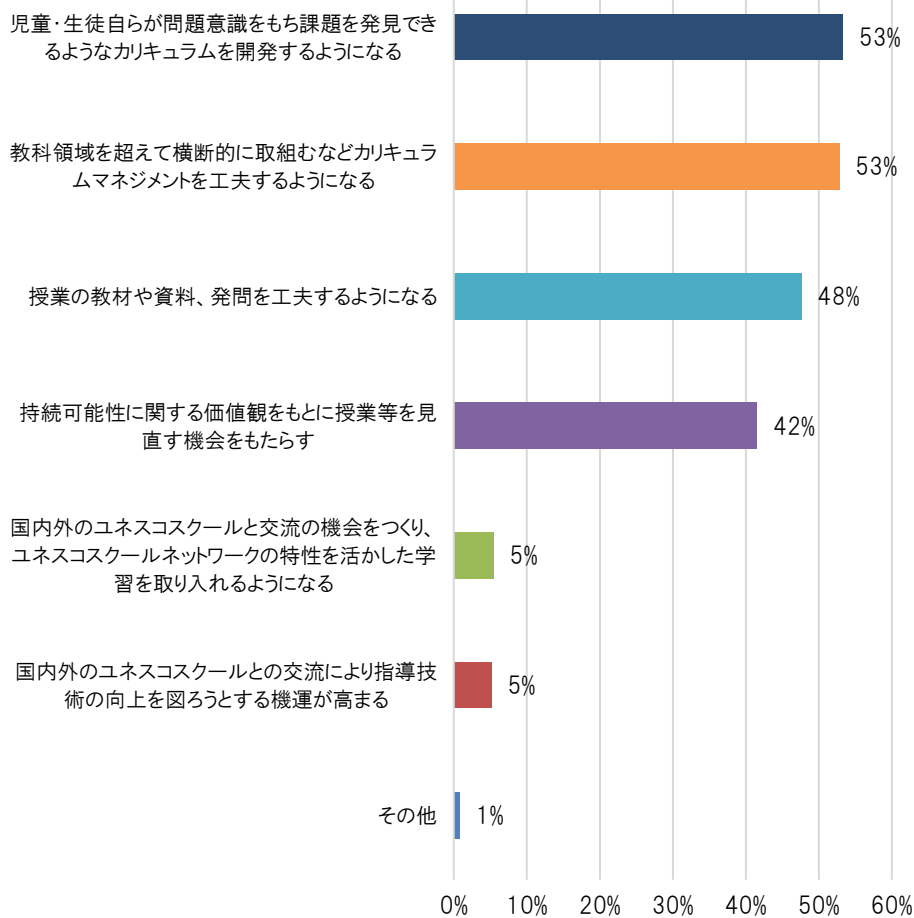
（参照：2. ② 質問2）[N=367]

ユネスコスクール事務局から加盟校1,120校に対して照会。679校から回答（回答率61%）
調査結果は、ユネスコスクール公式ウェブサイトに掲載：
<http://www.unesco-school.mext.go.jp/ユネスコスクール年次活動調査/>

2020年度ユネスコスクール活動調査結果（抜粋②）

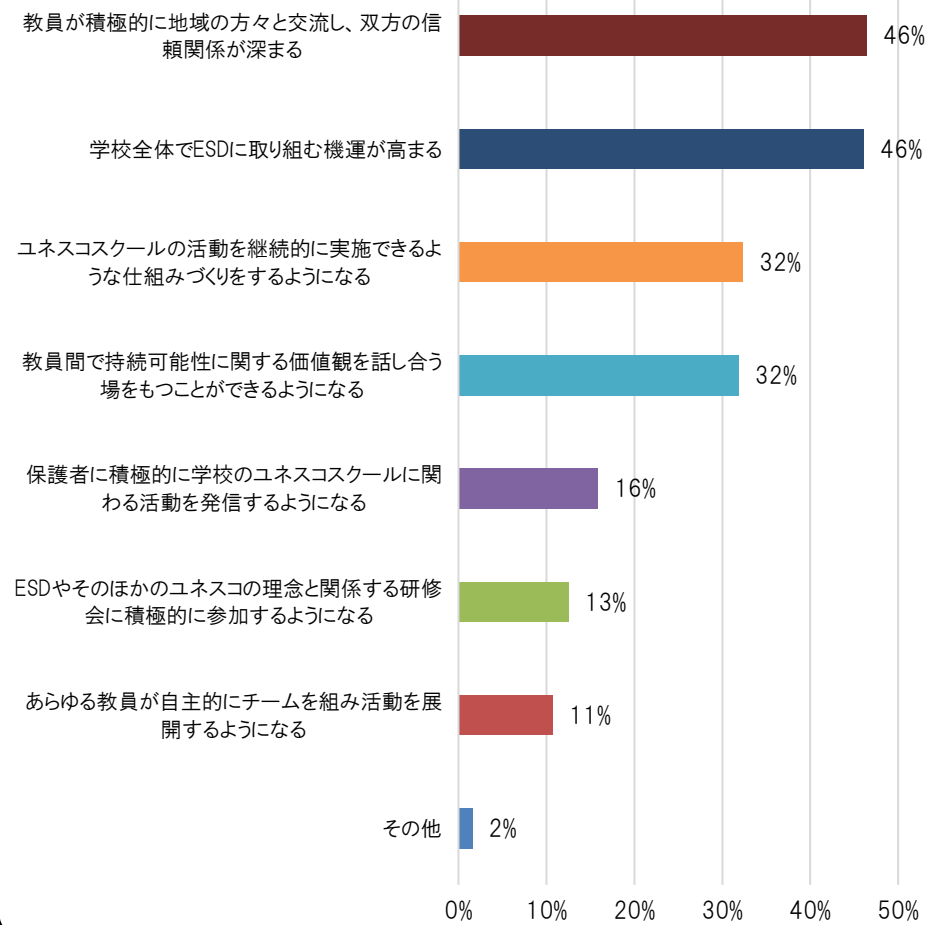
ユネスコスクールへ加盟後、ESDを実践したことによる教員の主な変化

図 35 ユネスコスクールの教育活動による教員の
カリキュラム・教授法の変化



（参考：2. ② 質問4（1））〔N=623（※複数回答可）〕

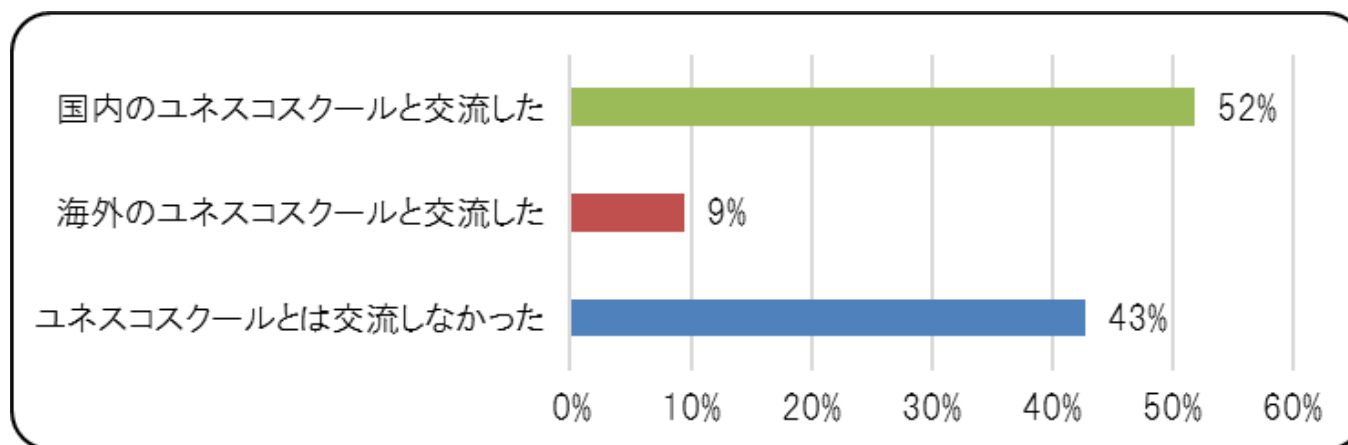
図 36 ユネスコスクールの教育活動による教員の
学校運営の変化



（参考：2. ② 質問4(2)）〔N=624（※複数回答可）〕

2020年度ユネスコスクール活動調査結果（抜粋③）

図 13 国内外のユネスコスクールとの交流



〔 N=264（※複数選択可） 〕

<表3>

国内のユネスコスクールと交流した際の主な成果

- ・自校の取組にない他校の取組を知り、視野が広がった。また取組を参考にし、自校の取組を改善したことによって、教育活動の質が向上した。
- ・取り扱ったテーマに関する理解が深まったと同時に、人と人とのつながりもできた。
- ・他校と交流することによって自分たちや地域の良さを再認識し、自尊感情が高まった他、学習意欲が向上した。
- ・コロナ禍でも試行錯誤しながら形を変えて実施したことで、臨機応変に考える力が醸成された。

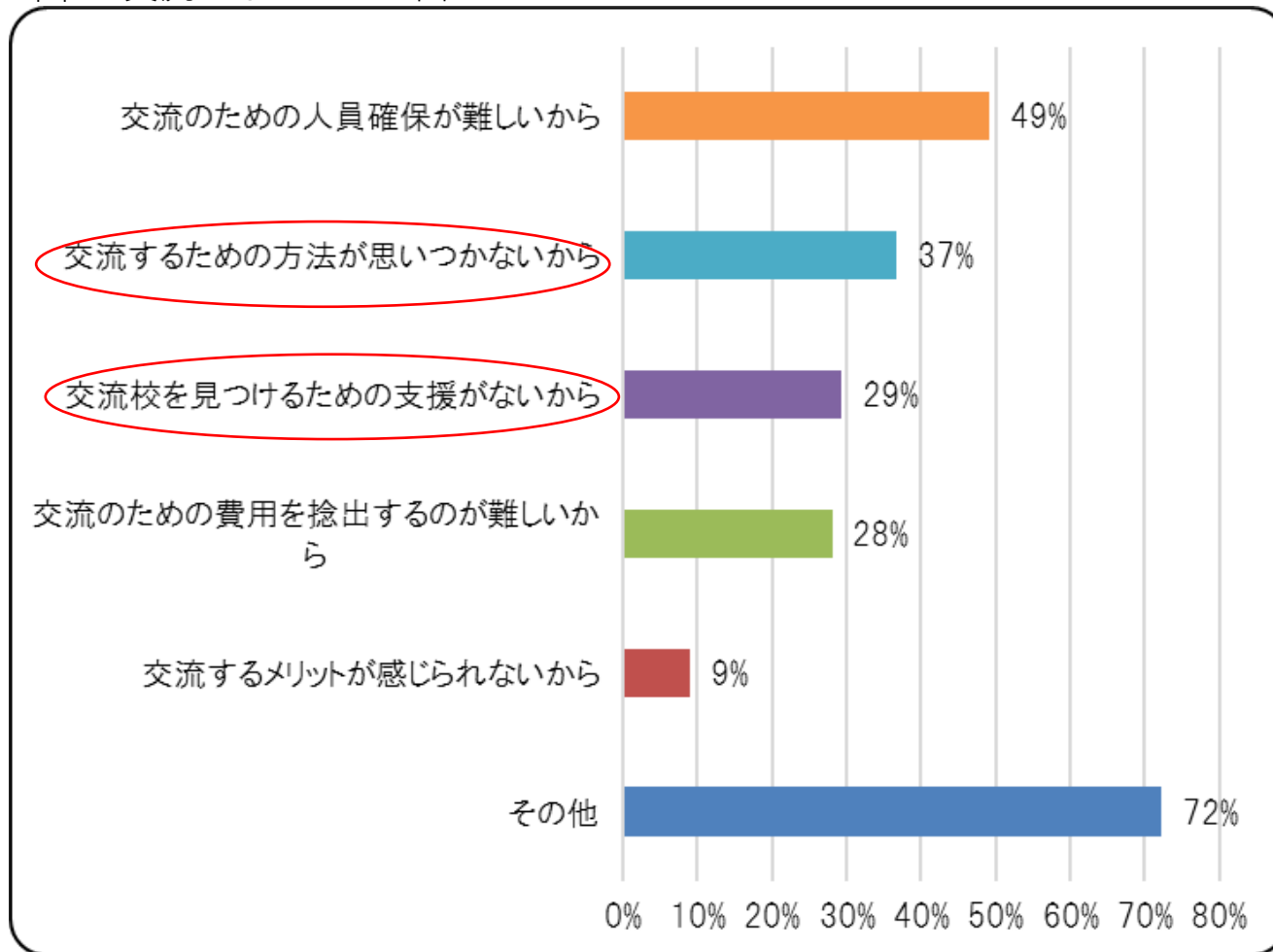
<表6>

海外のユネスコスクールと交流した際の主な成果

- ・異文化への理解が深まり、世界を身近なものとして考えられるようになったため、視野が広がった。
- ・自分の新たな一面を発見でき、自己有用感が高まった。
- ・持続可能な未来に向けての課題の共通性と連帯の必要性がより明確に自覚化された。
- ・コロナ禍での新たな交流の仕方を話し合うことができた。

2020年度ユネスコスクール活動調査結果（抜粋④）

図 18 交流しなかった理由

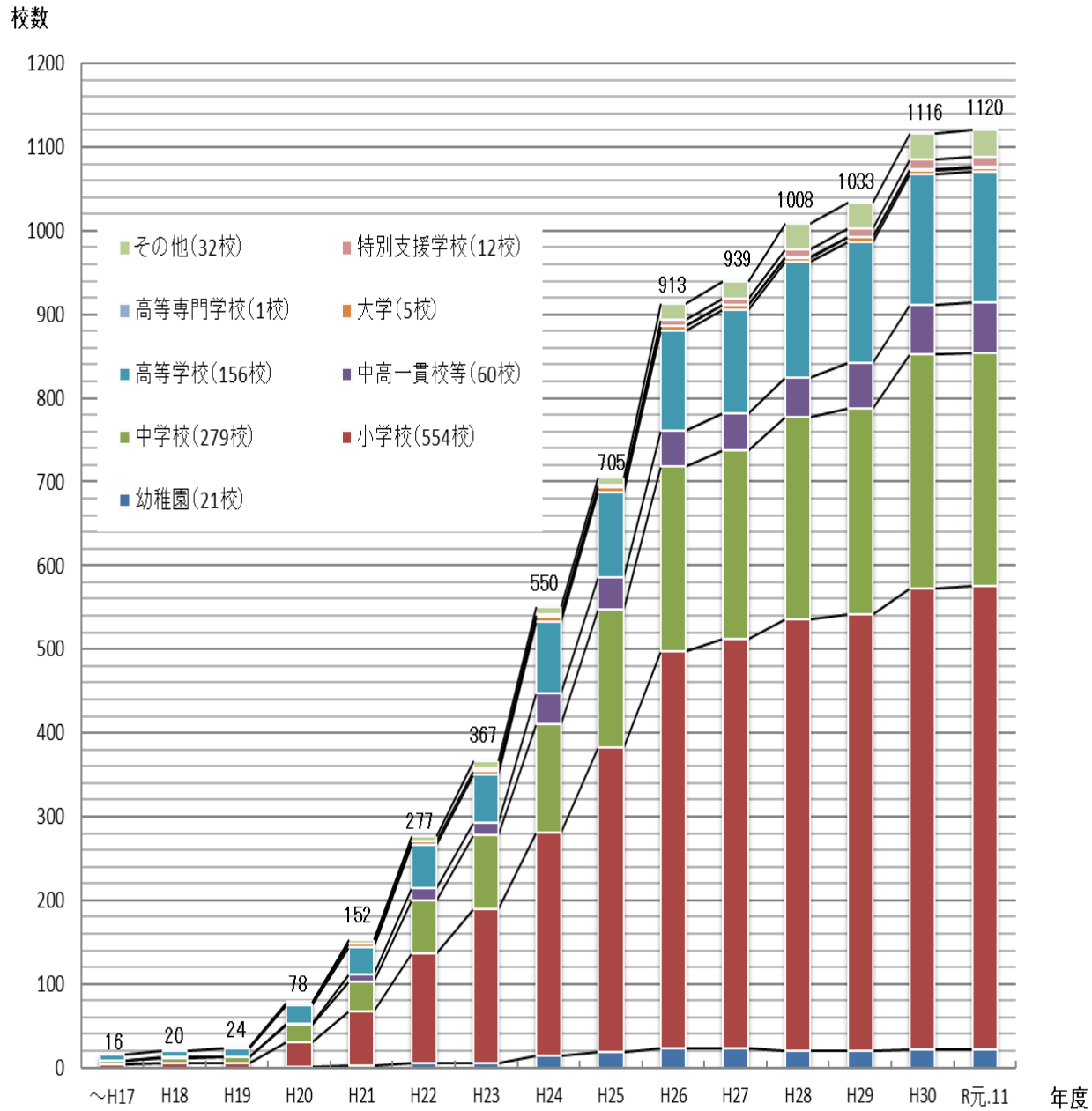


〔 N=303（※複数選択可） 〕

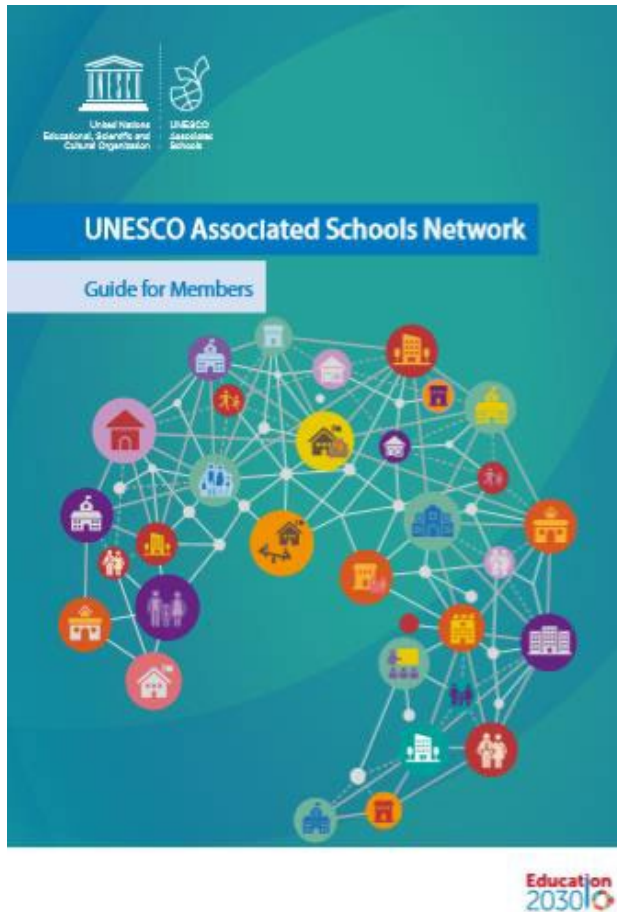
その他の主な回答：

「コロナ禍のため、行事や交流活動を自粛せざるを得なかった」「時数の確保ができなかった」「適切な交流校を見つけられなかった」「教員の負担が大きくなるから」「地域交流に力を入れている」など

ユネスコスクールの推移



ユネスコ本部が発行したユネスコスクールに関する学校向けガイドブック



UNESCO Associated Schools Network
Guide for Members (2019)

<https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000368992>

加盟のメリット

- グローバルな学校コミュニティの一員になること
- ユネスコの専門知識や指導・学習リソースへのアクセス
- ユネスコのプロジェクト、キャンペーン、コンテストなどへの参加機会
- 特定の会議やフォーラムなどへの参加機会（国内／国外）
- Online Tools for ASPnet (OTA) の利用
- ロゴの使用

加盟継続のための義務

- 年間活動計画書、年次活動報告書を年1回提出
- ユネスコまたはナショナルコーディネーターが提案する活動に年1回以上参加
- 年に2回以上、国際デーを学校を挙げて祝う
- 学校コミュニティ（教職員、保護者、地域など）にユネスコスクールであることを周知
- OTA上の学校情報を年2回以上更新

年間活動計画、年次活動報告、年次活動調査（アンケート）はユネスコスクール事務局に毎年提出。

ユネスコが提案する国際的な活動だけでなく、ナショナルコーディネーター（文部科学省国際統括官付）が提案する活動（例：ユネスコスクール全国大会等）も対象

国際デーはOTAの「Calendar」を参照（ユネスコスクール公式ウェブサイトのイベントカレンダーでも参照可：http://www.unesco-school.mext.go.jp/?page_id=1202）

（10月だけでも17の国際デーが設定されている。各学校の活動と関係の深い日を設定し、「祝う」ことで国際的な動きを意識する機会に。

ユネスコスクールのメンバーシップ ①

(ユネスコスクールナショナルコーディネーター用ガイドより)

<基準> (ユネスコスクール加盟時に求められるもの)

主なメンバーシップの基準は、以下を通じてユネスコの価値、理想および活動を推進するために学校のリーダーシップおよびコミュニティによって為される自発的な約束です。

- a. 革新的で参加型の方法論とアプローチの使用
- b. すべての生徒のための安全で、持続可能な、非暴力の、包括的で、効果的な学習環境の提供
- c. **国内外の学校との交流**

約束のこのような側面は申請過程で評価されます。またメンバーは以下に挙げるメンバーシップの要件を満たすことを約束しなければなりません。

<要件> (ユネスコスクール加盟後に求められるもの)

メンバーはユネスコの価値と原則を支持し、メンバーシップの地位を示し、維持するために一連の責務を十分に果たさなければなりません。その責務は、ユネスコスクールネットワークの運営・管理の品質を確保し、メンバーが使命と目的を達成してネットワークに貢献することを保証するためにユネスコによって設定された最低基準であり、以下のようなものです。

- a. 年間活動計画を予想される成果の説明と共にナショナルコーディネーターに提出する。
- b. 与えられたテンプレートを用いて年間レポートをナショナルコーディネーターに提出する。

ユネスコスクールのメンバーシップ ②

(ユネスコスクールナショナルコーディネーター用ガイドより)

要件 (続き)

- c. 毎学年度、ユネスコによるグローバルまたは地域のプロジェクト、コンテストまたはキャンペーン、またはナショナルコーディネーターによる関連する国の活動に、少なくとも1回は参加する。
- d. OTA上のユネスコスクールネットワーク・カレンダーから選択した国連デーを少なくとも2日、全学校コミュニティの参加を伴って祝う。
- e. ナショナルコーディネーターにより指示または提供されたやり方で、学校にユネスコスクールネットワーク・メンバーシップの外部向け表示を掲示する。
- f. (PTA、ポスター、学校ウェブサイト等を通じて) 学校コミュニティにユネスコスクールネットワーク・メンバーシップについて知らせる。
- g. 毎年最低2回、必要に応じてナショナルコーディネーター、他のメンバーまたはパートナーの支援を受けて、OTA上の自分たちの学校の情報を更新する (連絡先データ、学校統計および活動)。

国内の状況に応じて、ナショナルコーディネーターは国際コーディネーターに相談の上、メンバーシップの要件を追加する場合があります。

<メンバーシップ期間>

メンバーシップには3年から5年の定められた期間があり、その範囲内でナショナルコーディネーターが柔軟に決定します。メンバーシップは必要な条件が満たされれば同期間更新が可能です。その主な検証方法は年間メンバーレポートであり、ナショナルコーディネーターが訪問、あるいはその他のモニタリングや評価方法によってこれを補完することができます。ユネスコも品質確保のために、選択的モニタリングを実施する場合があります。

ユネスコスクールの質の担保

①審査体制の見直し

現在、チャレンジ期間を終え、ユネスコ本部への申請の可否についての審査業務の一部をASPUnivNetが申請準備を含む支援と審査の両方を兼ねているが、今後は、ユネスコスクール事務局の下に設置する審査委員会においてチャレンジ期間の終了可否判断を行う。

なお、ASPUnivNetについては、引き続きユネスコスクールの加盟前・加盟後の活動支援を担う。

②基準の見直し

現在、日本ユネスコ国内委員会が出したユネスコスクールガイドラインに基づき、活動チェックシートに沿って審査が行われているが、ユネスコ本部の基準として定められているものと必ずしも一致していない部分があるため、現在のチェックシートを基に、ユネスコが申請までに求める基準に該当する部分は必須とするとともに、加盟後に求められる要件については、申請時点ではオプションとして扱う。

③登録後の質の担保について

- ・毎年度の年次報告書の提出。
- ・原則5年毎に活動報告書及び活動チェックシートを基に、レビューを行う。具体的な方法・対象校については、現在調整中のため、後日連絡。

ユネスコスクール事務局による支援

委託先：公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

○ユネスコスクール公式ウェブサイトを通じた情報発信

(<http://www.unesco-school.mext.go.jp/>)

- ✓ ユネスコ及び日本ユネスコ国内委員会からの情報提供
- ✓ ユネスコスクールに関するイベント情報の発信（国際デーカレンダーの提供含む）
- ✓ ユネスコスクール年次報告書の収集及びアンケート調査の実施、調査結果の公表
- ✓ **ユネスコスクールの活動事例、教材の提供**
- ✓ 加盟校及び関連団体に関する情報提供等

○研修会等の開催、講師派遣、学校間交流マッチング支援 等



「持続可能な開発のための教育(ESD)推進のための手引」 (令和3年5月改訂版)



この手引について

- 学校現場でESDを広めるには、実施する教員や教務担当が具体的なカリキュラムの組み立てや地域との関係づくりを理解することが必須。こうした手法をステップバイステップで解説する手引きを作成。教員向け研修等で広く活用するもの。
- タイミングとしては、昨年度からESDの理念を盛り込んだ改訂学習指導要領が段階的に実施。国際的にも2021年5月に開催されたESD世界会議をキックオフとして、「ESD for 2030」という新たな国際枠組みが本格始動。
- こうした学習指導要領の改訂や国際的な動向等も踏まえて、令和3年5月に「持続可能な開発のための教育(ESD)推進のための手引」を改訂。

手引はこちら➡

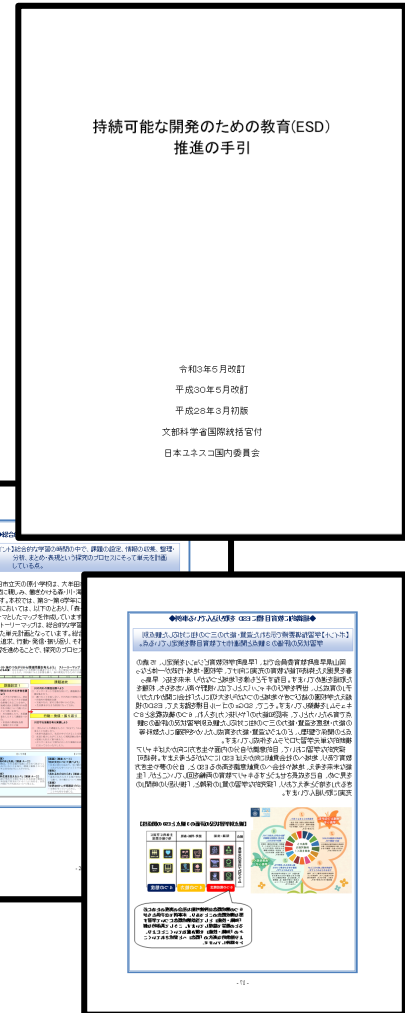
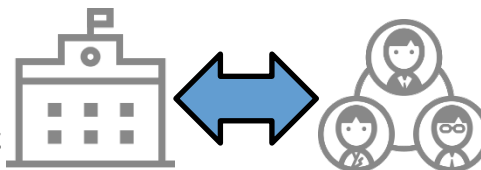
改訂のポイント

- ESD実践のポイントとして、ESD実践のためのカリキュラム・デザインや、学校内外での連携方法の促進について、内容を充実。
- 各学校等においてESDの実践が進むよう、具体的な取組事例の記載を充実。

➡ **学校と多様なステークホルダーが連携しながら、学校教育におけるESDの実践が進むよう、各学校を中心に活用いただく。**

主な活用先

各小・中・高等学校
大学や社会教育機関等の多様なステークホルダー 等



ユネスコスクール全国大会

日時:令和3年11月27日(土)

参加方法:オンライン

(当日の発表等を2月18日まで

オンデマンド動画配信中: 

<http://www.jp-esd.org/conference2021/>)

地域の関係機関・団体

- ・都道府県・市町村教育委員会
- ・ユネスコ協会
- ・ESDコンソーシアム
- ・ESD活動支援センター 等

その他の支援団体・機関

○ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)

(<https://www.unesco-school.mext.go.jp/supporters/aspunivnet/>) 

- ・ユネスコスクール加盟支援、活動支援、地域連携支援、ネットワーク形成支援

○公益社団法人日本ユネスコ協会連盟

(<https://www.unesco.or.jp/>) 

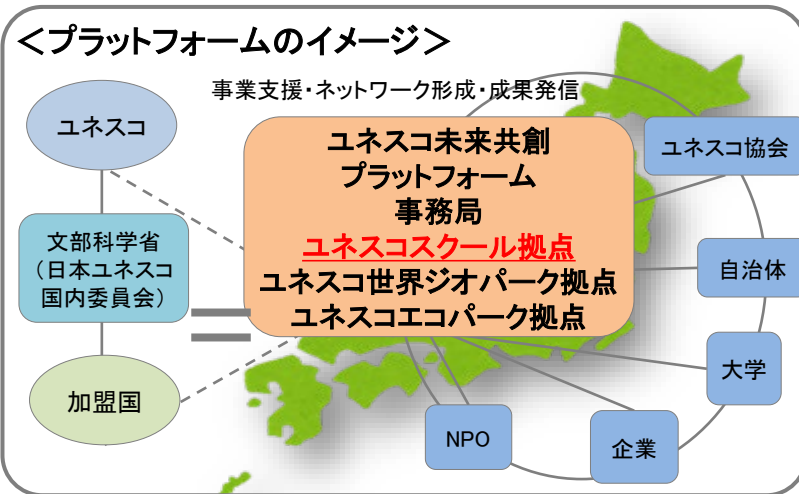
- ・ユネスコスクールSDGsアシストプロジェクト、アクサ ユネスコ協会減災教育プログラム他

○環境省、農林水産省、JICA等

- ・教材提供、講師派遣等

ユネスコ未来共創プラットフォーム

- **世界や地域の課題解決に資するユネスコ活動の活性化**に向けて、**SDGsの実現**に向けた取組等を進める多様なステークホルダーの知見を得て、国内活動と国際協力の成果の往還に資するよう、**国内の多様なユネスコ活動ネットワーク拠点の戦略的整備と先進的なユネスコ活動の海外展開**を一体的に推進する体制を構築・運営する。
- **地域の個性とユネスコ活動のメリットを生かした地方創成や多文化共生社会の構築**、若者や民間企業を含む多様なステークホルダーとの連携を深める戦略的なプラットフォームの活動を通じて、ユネスコ活動の活性化を通じた「新たな日常」における**持続可能な社会の構築を推進するとともに、多様な変化に対応できる人材の育成**を図る。



ユネスコ未来共創プラットフォームポータルサイト

<https://unesco-sdgs.mext.go.jp/>

- ・ユネスコスクールはじめ、他分野にわたるユネスコ活動の情報発信



期待される効果

- (i) 急速な社会変化に即応した恒常的な情報発信、
- (ii) 民間団体との連携強化、
- (iii) 国内のユネスコ活動と国際協力の成果の往還を通じて、我が国のユネスコ活動が我が国やユネスコの優先課題の解決を通じて持続可能な社会の構築に貢献

1. 概要

○ 世界中のESD実践者にとってより良い取組に挑戦する動機付けと、優れた取組を世界中に広めることを目的として、我が国の財政支援により、ユネスコが、**ESD活動に取り組む機関又は団体**が実施する優れたプロジェクトを表彰するもの

○ 「ESD for 2030」枠組みの優先行動5分野

- 1.政策の推進
- 2.学習環境の変革
- 3.教育者の能力開発
- 4.ユースのエンパワーメントと動員
- 5.地域レベルでの活動の促進

のうち、1つ以上の分野でESD活動に取り組んでいる機関又は団体が実施する、ESDに関する優れた事業を表彰。

○ 受賞機関／団体には、1件当たり5万米ドルの奨励金を授与。最大3件を表彰。

学校単位で応募可能！

2. 選考基準

- ESDが持続可能な開発を支える変容をもたらす教育として行われており、個人及び社会の変化につながっていること。
- 持続可能な開発に必要な3つの側面(社会、経済、環境)を一体的に取り扱っていること。
- イノベーションを促すアプローチを採用していること。

次回国内公募は
2023年冬を予定

3. 選考手続き

- ユネスコ加盟国又はユネスコ公式NGOの推薦(各団体最大3件)に基づき、世界5地域から選ばれた国際審査員(5名)による審査会で選考を実施。
- 選考結果を踏まえ、ユネスコ事務局長が受賞機関/団体を決定。



2021年度の受賞者及び表彰式について

○受賞機関／団体

学校が受賞！

54か国及び8機関から113件の推薦があり、次の3機関／団体が受賞しました。

World Vision Ghana ガーナ

持続可能性の核となる能力である批判的思考に焦点を当てた識字能力の開発に対する総合的アプローチを促進する「Unlock Literacy Project (UL)」を運営。

Media Development Center of the Birzeit University パレスチナ

実用的な実践的学習及び対話を通じた訓練研修によるメディア及び情報リテラシーの開発を目指している。

Kusi Kawsay School ペルー

現代社会における地球規模課題への対応を模索しつつも、人々に尊厳という力を与える土着及び地元の文化や価値観、コミュニティ構成員間の幸福感など、多くのESDの主要な要素に取り組んでいる。

○表彰式の様子

表彰式は日本語同時通訳付きで行われました。是非、ご確認ください！
<https://www.youtube.com/watch?v=XI4iLtbkCwQ>



受賞者の写真



日本政府代表者からの祝辞



受賞者はオンラインで参加しました

ご清聴ありがとうございました



Your everyday life will make a future.



日本ユネスコ国内委員会
Japanese National Commission for UNESCO

3-2-2 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, TOKYO, JAPAN, 100-8959

<http://www.mext.go.jp/unesco/>

e-mail:jpnatcom@mext.go.jp